



Title	社会教育課程の発足 : 生涯学習を支える人材の育成をめざして
Author(s)	田端, 宏
Citation	年報いわみざわ : 初等教育・教師教育研究, 12: 56-56
Issue Date	1991-03
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/8569
Rights	本文ファイルはNIIから提供されたものである。

社会教育課程の発足

—— 生涯学習を支える人材の育成をめざして ——

教員養成の分野に於ける人材の需給関係の変化もあって、教員養成課程の学生定員を別の分野の課程にふりかえて新しい課程の開設を、という考えで3～4年間検討して来ていました。本分校では、社会教育の重要性に注意して、この分野に関わる新課程の準備をすすめ、本年度、社会教育課程を発足させ、新課程の第一期入学生をむかえることになりました。

社会教育課程は、入学定員30名で、次のようなコース、分野、グループにわかれており、それぞれ、特色のある勉強ができるように考えられています。

1 社会教育コース

(1) 社会教育分野

(i) 教育学グループ 社会教育の理念、制度、歴史などを学び、また、市町村での社会教育の実際を研究し、社会教育活動の実践力の養成につとめる。

(ii) 心理学グループ 社会のレベルから個人のレベルまでの心の様相を学び、地域社会のあり方を研究し、自己理解から他者理解、他者援助のスキルの獲得をめざします。

(2) スポーツコミュニケーション分野 体育、健康、コミュニケーションの科学を総合的に学び、理論、実技を通して、スポーツコミュニケーションの実践力を養う。

2 地域科学コース

(1) 社会科学分野 身近な地域の学習を現代社会の科学的な理解へつなげて行く。フィールドワークなど実地の検証を重視した学習をすすめる。

(2) 自然科学分野 自然と人間活動の調和を求めて、社会科学の諸分野との関わりも重視し、新しい自然観をつくって行く学習をすすめる。

社会教育課程のカリキュラムでは、単位履修に関する制約を少なくするような履修制度をとっています。多様な開設科目のうちから自己の興味、関心によって自分でつくって行く履修体系というものが可能になるよう考えてあるのです。自分で自分を育てて行く自己教育力という考え方があります。大学に在学する4年間にこの力量をつけておくことは、社会参加の諸活動に、社会教育のリーダー的役割を果たして行くうえに重要だと思われれます。

開講科目としても特徴のある多様性を考えてのものが準備されています。スポーツコミュニケーション論、コミュニケーション心理学などコミュニケーション理論に関する科目、ビデオや文章による表現法を実践的に学習しようとする科目、アイヌ語、アイヌ文化に関する科目、コンピューター言語など情報処理教育に関連する科目などなどです。

第一期の入学生は、教育学、心理学、スポーツコミュニケーション、社会科学、自然科学の五つのグループ・分野のそれぞれ6名ずつの30名（うち女子学生7名）でした。上級生もまったくいない新生だけという状況は、やや淋しいところがある様子でしたが、それぞれの研究室のゼミナールあるいは、新生生合宿研修とかスポーツ大会といった学内の諸行事などを経過するなかで学生たちのまとまりも次第にできて来たようです。新しい開設科目での勉強にも意欲をみせはじめてきています。まだこれからつくって行かなければならない部分も沢山あるのですが、鋭意努力中というところです。

(社会教育課程運営委員長 田端 宏)